

『ソク・サバーイ！ 続カンボジア・サッカー見聞録～牛の  
向こうに未来が見える～』 Vol. 1

● J F Aサッカー1級インストラクター 唐木田 徹



コース名入りお揃いのポロシャツ

みなさんこんにちは。

梅雨も明け、日本も夏本番を迎えていることと思います。

私は2度目のカンボジア派遣で、3カ月ぶりにプノンペンに戻ってきました。相変わらず暑いです。2回目ということもあり、1週間後にはアパートメントの契約も終わりホテルから移動して、さっそく業務に就きました。すでに始まっている2009カンボジアプレミアリーグ（CPL）の指導からです。



実技風景

そこへ先日、AFC-Cライセンス・コーチングコースの競技規則に関する講義の依頼がきました。“AFCのコースをカンボジアで？”と思ったのですが、コーチングインストラクターはAFC地

域インストラクターのカンボジア人で受講生はすべてカンボジア人約30名、2週間のコースだそうです。しかし、そこはやはりカンボジア。GS補佐からの依頼のメールが火曜日で、曰く「インストラクターが講師派遣を忘れていた。ついては土曜日に講義できるか?」。いくらなんでも日にちが短すぎるので月曜日に変更してもらい、カンボジア人の審判インストラクター二人に担当してもらうことにしました。

打ち合わせで、一人が午前中に競技規則の概要や規則の解釈の仕方、もう一人が午後にテストと解説をすることになりました。私は午前の部で使えるようなビデオクリップの編集をし、実際の映像でサポートするつもりで準備しました。

当日は30分ほど前について準備開始。本当は、“もっと早く来て調整した方がいいのでは”と思ったのですが、一応彼らの予定に沿いました。が、案の定、最初からトラブル発生! まず、午前の講義担当インストラクターのPCとプロジェクターとの接続がうまくいかない。そこで、私のPCを使わせてほしいということになり、彼がメモリーを持って移動、しかしきちんと映らない。というより、私のPCはクメール語など認識しないので当たり前。すったもんだ

で、もう一人のインストラクターのPCを運んできて講義開始。すでに30分が経過していました。



講義風景 1

“やれやれ講義が始まったか”と観察していると、途中で議論が沸騰。クメール語でやり合っているのが定かではないのですが、フェアプレーの考え方もめめているらしい。受講生はもとプレイヤーが大半なので、ルールの基礎や特に「精神」の部分が納得できない様子。もう一人がうまく話題をまとめて（逸らして?）、何とか進みました。





講義風景 2

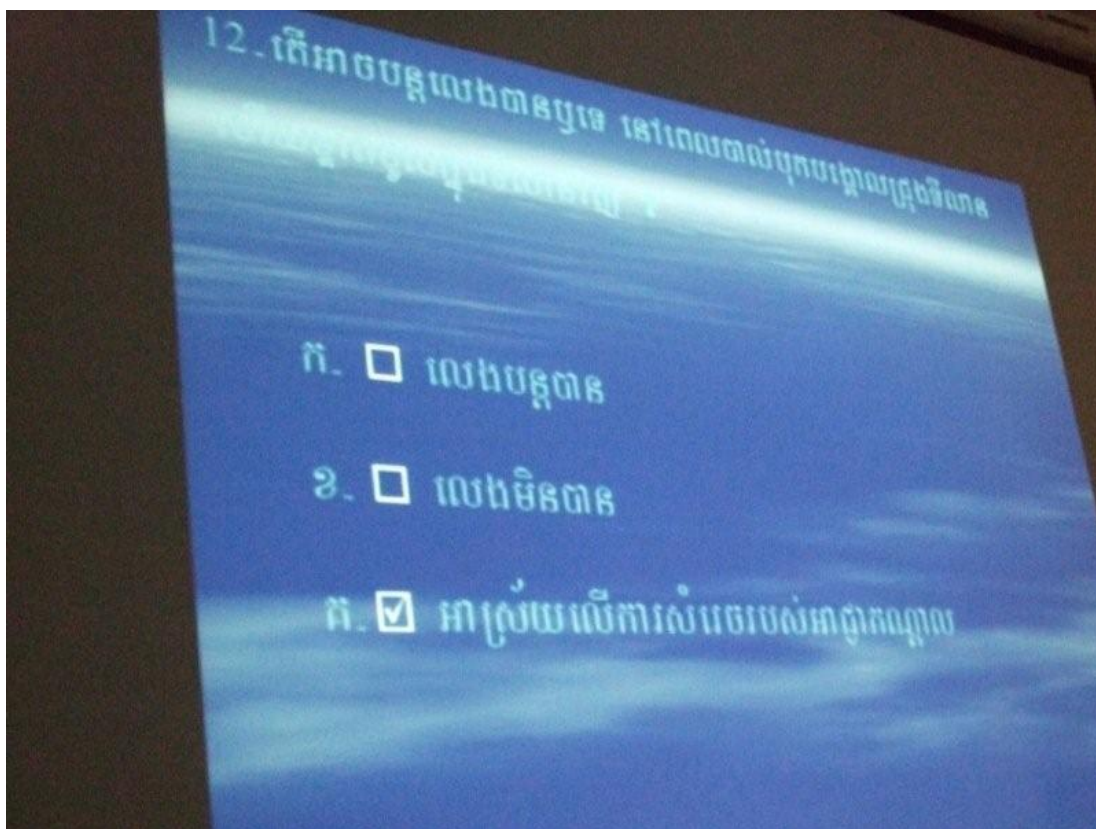
途中から、私が用意したビデオクリップを使用し、選手サイドが間違えやすい、あるいは勘違いをしていると思われるシーンを映しながら解説をしました。やはり映像を使った方が興味を引きやすく、さらに自分たちの解釈（間違った）と実際の判定の解釈を聞くことで多少の整理はできたようです。素材もF A（イングランド協会）のビデオとJリーグの映像、さらにはC P Lの映像も使ったので比較ができて好評でした。



講義風景 3

午後は試験と解説です。試験問題はQ&Aから作ったそうです。しかし、コーチングコースの受講生は間違いなくルールブックなど読んだことがない（審判の大半もそうなので）のですから、Q&Aは難しすぎるでしょう。このへんがカンボジア人の一つの特徴で、知っていることを自慢したい、見せつけたいのです。われわれは講師なのだから知っているのは当たり前なのに……。ところが、その解説の中で解答が間違っており、ここぞとばかりに受講生から逆襲を受けていました。私も間違いが映し出されたスクリーンを写真に

納め、その場の雰囲気盛り上げるのに一役買いました。



解答が違っている！ でも何を書いているかわかりません

言うまでもなくコーチと審判は敵ではなく、より良いサッカー環境を作り上げていくための車の両輪です。“このような形の交流・相互理解をはかる場をもっと広げていけたらよいなあ”、と感じた一日でした。

※『ソク・サバーイ』とは、クメール語で「元気です」「元気ですか？」（正式にはソク・サバーイ・テー？）の意。